

専大鳳児 飛び立つ



2005年度専修大学卒業式・学位記授与式

05年度専修大学卒業式・学位記授与式は3月22日、東京・千代田区の日本武道館で行われた。学部卒業生、大学院修了生が学窓を飛び立ったほか、専門職大学院の法科大学院から初の修了生が誕生した。

学位記、川島記念賞が各総代に贈られたあと、日高

義博学長が式辞の中で「社会知性の開発の実現に向け、パワフルにハートフルに活躍を」と呼びかけた。これを受け馬場賢一さん(商学部)が卒業生、修了生を代表して謝辞を述べた。

大学院と法科大学院の学位記授与は会場を変えて行われ、初の合同の学位記授与記念パーティーが開かれた。

「専大鳳児 飛び立つ」は、書家としても活躍している仲川恭司文学部教授の揮毫。

仲川教授は、国内はもとより海外展出品も多く、国際的に活躍、昨年ウクライナで開催の「現代日本の書代表作家キエフ展」(毎日書道会主催)に参加。地元テレビ番組にも出演した。独立書人団副理事長。毎日書道会監事。第1回日本書道大賞新人賞受賞。

最近では第1回手島右卿(てしま・ゆうけい)賞に決まり、高知市で3月27日表彰式、その後、書展が催される。

学長式辞 日高義博

混迷社会に光を与える役割

〈以下、要旨です〉

今年度の式典におきましては、大学教育の幅の広さを示すことのできる4種類の学位を授与することができました。本学の教育の幅の広さと力強さを体感しつつ、これから専修人としての自覚を持ち、それぞれの目標に向けて一斉に学窓を飛び立って行く光景は、本学の大学力、総合力のさらなる向上を強く予感させるものであります。

学部あるいは大学院において、皆さんはこれまで何を学び、何を体得したでしょうか。この問いかけは、実は、大学教育の本質にかかわる大きなテーマでもあります。諸君は、これまでの大学教育によって自然と「ものの考え方」が身につけているはずですし、これからの人生の節目、節目に大学教育で与えられた羅針盤が威力を発揮していくこととなります。

先ほどの問いは、本学には、確たる大学論があるのかということをお問いただすこととなります。大学も社会の変動に大きな影響を受けます。大学で何を教授し、大学が社会的にどのような役割を担うかは、社会の変動とともに推移します。しかしながら、私学の場合、いかなる状況にあっても建学の精神を忘れてはなりません。本学の建学の精神は、専門教育によってわが国の人的基盤を整備し、市民社会の屋台骨を支える人材を、市民レベルにおいて養成していくことに集約されましょう。

本学は、社会との相互作用の中で大学の役割を捉えており、実学的指向を持っていると言えますが、それにとどまらず、市民社会のあるべき姿を本学の知の発信として提示していくという高い志を持っています。このことは、21世紀において専修大学が何をなすべきかを考える際の指針となりました。21世紀のビジョンとして「社会知性の開発」を掲げていますが、4人の創立者たちの建学の精神を21世紀に生かすためのものです。

社会知性は、社会の諸課題を解決するための知的能力を言いますが、社会がどのような問題解決を求めているのかということに胸襟を開くと共に、社会のあるべき方向性を主体的に発信していくことが求められます。しかも、社会知性をもとに社会の開発を担う人材には、人間性と倫理観が備わっていなければならない。人の痛みを理解し、喜びを共に分かちあえる人間でなければ、よりよき社会の発展は描けないのです。諸君は、このような社会知性の実現の担い手であることを深く肝に銘じてください。専修大学の21世紀の歴史を刻んでいくのは、建学の精神を社会において発信していく諸君自身なのです。

価値体系が崩れ、規範意識が希薄になってきている今日の複雑化した社会において、本学の目指す社会知性の実現は、混迷した社会に光を与えるものと確信しています。

本年4月からは、法学部では政治学科がスタートし、商学部では名称変更されたマーケティング学科がスタートします。専門職大学院としては、会計専門職大学院の設置の検討がなされています。この数年間の社会知性に基づく知の発信によって、専修大学はさらに飛躍することになるでしょう。学窓を飛び立つ諸君、専修大学で学んだことに自信と誇りを持ち、社会知性の実現に向け、それぞれの分野においてパワフルにかつハートフルに活躍されますことを期待し、式辞といたします。(要旨)

理事長祝辞 出牛正芳

一歩一歩着実に前進しよう

卒業式・学位記授与式を迎えられた皆さんに対し、専修大学を代表して心からお祝いの言葉をおくります。卒業、学位授与おめでとう。

ご参列のご家族の皆さま方もさぞやお慶びのことと拝察し、お祝い申し上げますと共に、ご子女の在学中、本学にお示しいただいたご協力に対しまして、心より感謝申し上げます。

卒業式・学位記授与式を意味する英語Commencement(カメンズメント)は、同時に「開始」「始まり」をも意味します。「卒業」という言葉は、「決められた課程を学び終えること」、「一つの事業を完了すること」を意味します。したがって、卒業式は、一つのことが終わり、次の業の始まり、すなわち、新しい人生のスタートを祝福するお祝いの儀式をも意味していると思います。

現在は景気の回復が感じられるようになってきましたが、皆さんが学生生活を送られていた間に、「9・11」アメリカ同時多発テロをきっかけとしたイラク戦争、BSEにかかわる米国産牛肉問題、耐震強度偽装問題、ライブドア問題等々さまざまな出来事がありました。現在も社会を取り巻く状況は、変化の激しい、たいへん厳しい状況にあります。その荒波のなかに門出される皆さんの前途は、決して平坦なものではないでしょう。

皆さんそれぞれの道を歩もうとも、しっかりと大地に足をつけ、前途洋々たる将来に向かって、あらん限りの力を発揮して一歩一歩着実に前進してください。「急がば回れ」という諺(ことわざ)の通り、急いではありません。

その成長の過程には、幾多の越えねばならない苦難の峠があります。徳川家康の「人の一生は重き荷を負うて遠き道を行くがごとし、急ぐべからず」という言葉の通り、どんな遠い道のりでも、一歩一歩歩いていけば、必ず目標に到達するはずで。

皆さんは、21世紀の担い手であり、人間と自然が共生出来るような社会にする責任を担っております。そのためにも、美しいもの、崇高なものに感動する心を持ち続けてもらいたいものです。

大地に足をしっかりとつけ、志を高く持ち、自己啓発に努めるならば、本学で学んだ学問と教養は必ず生きたものとなり、現実の社会生活を実りあるものにしてくれるでしょう。

専修大学のキャンパスで培った友情を大切に、その友情を自分の成長のために生かし、時代にチャレンジする「新しい校友」として、母校に対し、さまざまな形でご支援・ご協力をいただきたいと心より願うものがあります。

皆さんの輝かしい前途を祝福すると共に、今後のご活躍を祈念し、お祝いの辞とします。(要旨)

